

史学科

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程・教育方法】

史学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を段階的に習得させるために、以下のカリキュラム・ポリシーに則り、「方法科目」、「基礎演習」、「主題科目」、「演習」、「特別演習」および「卒業論文」を体系的に編成する。また、資格の取得に必要な専門科目を置く。なお、学科科目と学科ディプロマ・ポリシーとの対応は、カリキュラム・マップとして提示する。

方法科目

歴史学と関連諸科学に関する基本的な知識と視点、および論理的な思考方法を身につけるための導入科目として、1～2年次に方法科目を置く。

基礎演習

方法科目で習得した知識・技能を実践する場として、1年次に「基礎演習Ⅰ」を置く。2年次には、史資料・文献の読解力を養うため、「基礎演習Ⅱ」「古文書基礎演習」を置く。

主題科目

2～4年次に段階的に専門知識を修得するため日本史・西洋史・東洋史に関する講義科目を置く。また、日本と世界の文化・歴史に対する幅広い知識を持ち、理解を深めるため、歴史と関係の深い地理学・宗教学・博物館学等の人文社会系科目を置く。

演習・特別演習

3～4年次に、史資料の読解や調査を主体的に行い、調べたことを的確に表現し、他者と意見を共有・議論するコミュニケーション力の養成のため、演習科目を置く。

卒業論文

4年次に大学での学修の集大成として、卒業論文を置く。一つのテーマについて自らの視点から論を展開し、学術論文としてまとめ上げる。

資格科目

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、博物館学芸員の資格に必要な専門科目を置く。

【学修成果達成のための科目】

- DP1 方法科目、主題科目
- DP2 基礎演習、演習・特別演習、卒業論文
- DP3 基礎演習、演習・特別演習
- DP4 卒業論文、資格科目（教職・博物館学芸員）